

JTF548 08 76行

「書評④」
◎戦火に散つた若き才能
（写真1）
轍馬（ばんば）の歌能
久保克彦の青春

《凶案対象》と戦没画学生

木村
享著

日本は1941年に太平洋戦争を始めた。しかし、戦局悪化に伴い戦死者が急速に増加してゆく。兵力不足が深刻化する。と大学や専門学校の修業年限を短縮し、学生を早く兵役に就かせるようになした。東京美術学校（現・東京芸術大学）も42年には6ヶ月短縮され、9月卒業、10月入隊の措置が取られた。本書はその成作品は「図案対象」1点だけであるが、没後75年たった今でも、その力は色あせない。昨年には5画面からなる久保の卒業制作「図案対象」は、NHKの日曜美術館でも取り上げられた。久保は18年、山口県東部の瀬戸内海に浮かぶ佐々島で生まれる。父は自由律俳句の種田山頭火と、も親しく、文才と画才に恵まれていたが、家業の



E190813-ITE548 (2100x2800)

JTE549 KJ551-1 (P)

①「輓馬の歌 『凶案対象』と
戦没画学生・久保克彦の青春」

主義の思想、さらに「黃金比」といった数学的思考などあらゆるもののが考に組み込まれている。本書は久保克彦といふ類いまれな才能を持つた青年の姿を通して、国家が主導する戦争というもののが、どれほど多くの青年の可能性を奪つたかを考へる。

しょゆ醸造業を継ぐた
めに東京美術学校への進
学を断念した人だった。 (国書刊行会・2916)
久保家は自由で知的な
環境に恵まれていた。東
京美術学校での状況や思
考がよく分かるのは、姉
たちとの頻繁な手紙のや
りとりが残っているから
である。著者は久保のお
いであり、残された手紙
などの資料をふんだんに
使い、親類からの情報や
綿密な調査、研究を基に
時代状況を再現し、生き
生きとした久保の人物像
を浮かび上がらせた。
「図案対象」は、久保
が自らの死を意識しなが
ら、それまでに学んだす
べてを注ぎ込んだ、戦時
中とは思えない前衛的な
大作となつた。そこには
時代の流れが表され、レ

【編注】
きむら・とおる=1936年、山口県周南市生まれ。大阪大工業部卒業後6年、会社員を経てNPO法人産業メンタルヘルス研究所を設立。久保克彦の「久保克彦の遺作画集」など。
(了)

四

7

四

7

（松本猛・著）